

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 12 月 18 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500181		
法人名	医療法人 紅萌会		
事業所名	グループホーム春		
所在地	広島県福山市王子町1-4-5		
	電話番号	084-973-3131	
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 23 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 12 月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 3 年 12 月 4 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣には、公園、大型スーパーなどがあり利便性が良く、外出の機会を持てる場所です。医療面でも福山記念病院が協力機関であり、併設の介護老人保健施設ビーブル春秋苑があり24時間、緊急時の対応が出来ます。職員はご入居者、ご家族の気持ちに寄り添いケアにあたれるよう情報共有に努めています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣には医師会館や市保健所、社協等があり、恵まれた環境である。また、大型スーパーや大、中の商業施設も多くあり、とても便利な地域の中にある。すぐ隣には公園があり、天気の良い日には公園に出かけ、その時々木々の移り変わりで季節を感じる事ができる。同法人の老人保健施設や通所介護事業所等が併設されていて、防災訓練などは合同で実施され、色んな面で協力出来る事で利用者の安全、安心に繋げる事ができている。ケア面に於いては利用者本位の暮らしができる様、職員の都合で動くのではなく、その人のペースを大切に、触れ合う時間を多く持ち、会話の中から個々の思いを汲み取り、思いに添える様務め、一日一日を大切に過ごしてもらう事を全職員が共有し、ブレのない支援を心掛けている。医療に関しては協力医療機関が近くあり、緊急時の対応も適切にできると共に併設の老人保健施設の看護師との連携も構築され、相談や指示も得られ安心である。地域との交流はコロナ禍の為、以前の様には出来ていない。また、家族の訪問も制限があり、家族や本人の不安を少しでも解消してもらう様、日々の様子をラインで動画を送ったり、テラスから家族とお話ししてもらう等、色んな工夫をし、安心してもらう様取り組まれている。食事についても管理栄養士が常に栄養面を考えられバランスのとれた食事メニューで食を大事にされていると共に職員は笑顔と優しさを大切にした対応で家族の様に共に支え合い穏やかに安心、安全に過ごせる環境作りを努め、明るく、温かみのある事業所である。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果(3階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針がぶれないように、職員ネームの裏に書かれており、常に意識しながらケアにあたり会議の時は読み上げている。	リビングに掲示すると共に職員のネームの裏に記載されている。又、ユニット会議や全体会議で復唱し、再認識の機会とし、共有しながら実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の町内会の草取りに職員が参加し、交流している。入居者の方と公園に散歩に行き、挨拶を交わしていたが、現在はコロナウイルス、感染予防の為中止している。	コロナ禍の為、地域との交流は出来ていないが、月1度の清掃活動には参加し、地域の一員として関わりを大切に、地域資源の活用にも繋げられる様務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、現在の状況等を報告し認知症の理解求める取組を行っているが、現在はコロナウイルスの為中止。春だよりを作成し、配布させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のGHでの状況・対応等の報告を行い、外部の方の意見を聞き、質の良いケア・サービス提供を出来るように努めている。	コロナ感染予防の為、以前の様な形での運営推進会議は出来ていないが、春便りと現状を書面にて報告し、理解してもらう中で意見等の把握に努めている。今年度は少し感染者が少なくなった8月には実施し、民生委員、町内会長との参加で実施し、意見を伺い、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して頂き、実情を把握して頂いている。事故報告提出時など、施設ケア内容を報告し助言頂くこともある。日頃からの連絡は取っていない。	以前は運営推進会議に参加が得られていたが、コロナの為、実施出来ない状況であり、必要書類提出の際には、現状を伝え、実情を理解してもらい協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修やセミナー等行い、各自で正しい知識を身につけ、職員同士で共有し、身体拘束のないよう努めている。月1回は身体拘束委員会を開いている。	基本身体拘束はしない方針である。リスクに対しては見守りを強化し、抑圧しない対応を心掛けている。身体拘束廃止委員会を毎月実施し検討し、拘束しない支援をしている。研修も行い全職員が行為に対して正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自web研修にて学習し、再認識している。職員同士声掛け・ケアの方法等注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を理解し、支援が必要と思われる入居者が居る場合アドバイスや情報提供様になっている。現在は成年後見人制度を利用している入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に来て頂き、施設の取り組みや方針を説明している。契約時には契約書・重要事項説明書を読み上げ質問を受けながら、ご理解、納得された上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は、コロナの為、面会できず、職員のみご家族とお会いし要望など伺う。Lineや電話での相談も伺いプランなどに取り入れている。	家族の訪問時に意見等を聞いていたが、訪問制限があり以前の様な形でのお話し合いは出来ていないが、小使い帳の確認に来られる時、現状報告をする中で把握するように努めている。又ラインや電話等でも聞かれ、色々な場面での意見や要望は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各ユニットカンファレンス・2ユニット合同の全体会議で意見交換している。課題発生時にはその都度意見を出し合い対応検討している。	日頃のケアの中で気付きがあればその都度、聞いている。また、ユニット会議等で出た意見や提案、意見は全体会議で検討し反映させている。信頼関係が出来ているので多くの意見が出る。個人面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働の削減、業務改善のため話し合い働きやすい職場作りを心掛けている。個人の希望を出来る限り取り入れ各自に応じた勤務の工夫を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の業務実績、状況を把握した上で研修及び資格修得の機会を確保し、働きながら実践を勧めている。その為の勤務調整、情報提供を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナの為、同業者との交流は出来ていない。施設内研修は、隣接する老人保健施設と合同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に御家族からの情報を頂き、本人の話を伺いながら出来る限り本人・御家族の要望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族からの心配事、不安な事、要望などに耳を傾け、サービス内容をしっかり説明し、確認をして頂き、都度、日々の状況報告をしながら情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人・職員を交えて話し合い相談し、本人が必要とされている事、又家族が本人に対してどのような支援・サービスを求められているかなどを考え見極めて支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を他入居者・職員と常に一緒に家族と同じような雰囲気の中で、本人の好きなように穏やかに過ごせる工夫を心掛ける。又、野菜作りなどを通して職員が入居者の方に教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と状況把握をし、話し合い相談し、本人にとって良好とする支援を考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆ど入居者の方が関係性の継続は困難となる。現在はコロナの為、外出等出来ていないが、中には家族来苑時にベランダより顔を出し家族と会話している方もいる。外出できるようになれば検討したい。	コロナ禍の為家族や親戚の訪問が制限され、以前の様に自由には受け入れる事ができないがテラスから家族と会われる方もいる。又、ラインで日頃の様子を動画配信する等、会えない事の不安を少しでも解消してもらおう事と家族との絆が途切れない支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格・行動・言動等を把握することで出来るだけ孤立状態を避け、レクリエーションなどで全員で参加できるよう工夫する。数人ごとのグループでコミュニケーションも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も問い合わせがあれば、対応させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を尊重し、本人の希望に出来る限り添えるよう努めている。散歩、入浴時に話しやすい雰囲気を作っている。困難時は、家族からの情報や意向の把握に努めている。把握した内容は、連絡ノートや担当者会議で共有している。	日々の会話の中や利用者同士の会話、また、個別対応時等で把握し、可能な限り思いに沿う様取り組まれている。食べ物(お寿司、おやつ)等の希望が多く出る。可能な限り思いに沿うようにしている。表出困難な方には家族の協力と生活歴などから、検討している。口答で言われる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族から入手出来なかった情報が、後から知る事柄もある。その為、入居後、信頼関係を築き情報収集を行う。職員全員で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会議で利用者の情報・状況を話し合い、その方が何を望んでおられるのか現状の把握に努めている。一人ひとりの日常を注視観察し、職員同士で共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時の家族との話を基に作成している。担当者会議に本人に参加して頂いたりしている。モニタリングは毎月、見直しは6カ月としているが、必要に応じて対応している。	家族、本人の意向、主治医の所見、日々の業務日誌から、課題やニーズについて職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟な計画を作成されている。モニタリングは毎月、見直しは半年となっている。変化が起きた場合は其の都度現状に即した見直しをしている。家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に御家族、医療、職員で情報を共有し、ご本人にとって良い状態を考え、見直し、作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出は、コロナの為出来ていないが、出来る限り希望に添える様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2020年からコロナ感染流行にて外出も出来ず行事なども中止となる。家族との面会が出来ない為、LINEでの交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療があり、都度本人様の体調を診ながら医師に相談、必要時、受診介助や訪診をしてもらっている。訪問歯科も利用。	協力医療機関の往診が月2回、他科については家族対応となっている。訪問歯科支援もあるが希望者だけとなっている。希望しない人は家族が通院支援となっている。結果については家族と共有し安全確保に努めている。24時間対応できる体制であり、常に適切な医療が受けられ安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に併設施設の看護師が健康管理に来ている。必要に応じて、併設施設の看護師に助言もらい、病院受診もするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリー等書面で情報交換し、毎日お見舞いに行き、病院の看護師から状態を聞き相談しながら早期退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医師及び事業所と御家族と話せる機会を設け入居者の方の尊厳を大切に考え家族への説明を十分に時間をかけて行い、医師、看護師、職員が連携をとって支援出来るよう努めている。	利用開始時、指針を基に説明を行い、理解は得られている。重度化した場合は事業所として出来る事出来ない事を家族に説明し、家族の意向をその都度確認しながら、家族、主治医、看護師、職員が方針を共有し、医療行為が必要になった場合は医療機関となるが出来るところまでチームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会、研修を行い、全員が参加し、訓練したり、疑問点などお互いが話し合い対応出来るよう実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を併設施設と行うようにしている。消防署の協力もお願いしている。町内会の方にも声掛けしている。緊急連絡網を作成、休日・夜間の災害にも備えている。コロナの為、今年度は、ペーパーにて災害時について話し合う。	同法人の併設施設と共に年2回訓練は実施していたが、昨年からのコロナ禍の為、書面(避難経路の確認や火災、通報、避難誘導等)にて話し合い実践に繋げる様取り組まれている。終息すれば、以前の様に訓練を行い実践力を身につける様務め、地域の協力が得られる取り組みも行う	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、その時の状況に応じ最適と思う言葉かけや対応を心掛けている。	常に人生の先輩であり、尊厳を大切に声かけや対応をするよう努めている。馴れ合いながらも節度ある対応する様周知し、気づいた時にはお互いに注意し合っている。排泄、入浴、居室訪問等、プライバシーを損ねない支援を心掛けている。書類に関しても適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えを傾聴し、本人様の本音を引き出せるよう声掛けに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の調子に応じ、本人様が望むようにペースを考え、穏やかに1日が過ごせるよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の体感温度や季節感を損なわない好みのおしゃれを自由に選んで頂けるよう支援している。化粧水や洗顔フォーム、口紅、バッグなど持たれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った量、バランスを考え毎食完食出来るよう工夫している。配膳、下膳、片付け、野菜の皮むきなどして頂いている。	トロミ、キザミ、ミキサー食等身体状況に合わせた形態となっている。管理栄養士によるメニューで、栄養バランスにも気をつけられていると共に彩りも良く、食事が楽しみとなる支援を心掛けている。力量により下ごしらえやテーブル拭き、下膳、洗い物などしてもらい、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて調理している。好みもあるので、無理強いせず、声掛けしながら摂取して頂いている。入居されて間もない方は、水分摂取量を計算している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり付き添い口腔ケア介助の支援に努めている。本人様が歯磨きをした後の仕上げ磨きや、口腔内の確認、義歯洗浄も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄して頂ける様に声掛けを行っている。紙パンツだと皮膚トラブルを起こしやすく、布製の下着着用をして頂いている。	個々の時間帯で声かけし、日中はトイレでの排泄に努め、機能維持や生活習慣を活かす事と、また、気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。立位、座位の難しい方も2人介助で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気をつけたり、歩行運動等室内で出来る事をして頂いている。朝食には、毎朝、ヨーグルトを提供させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調等に気をつけながら、本人の希望に添って入浴して頂いている。拒否ある日は、別の日にずらしたりしている。	回数や時間帯は決められている。湯温や石鹸、シャンプーなど希望にも対応し、入浴が楽しみとなる様、務めている。拒否の方にはタイミングや声かけ、対応職員を変える等工夫をしながら、週1回は入浴してもらい、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、その時の状況・体調・傾眠に応じて、日中臥床を勧めたり、自ら横になられる方もおられる。自宅で遅くまでテレビを観られていた方は、GHでも夕食後テレビを観ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員理解出来るよう効能書を見ながら確認している。内服薬は、主治医より処方された薬を薬剤師がGHへ持参、GH職員に説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った家事手伝いや気分転換等(編み物・塗り絵・計算ドリル)して頂けるよう声掛けを行っている。嗜好品も入居者の方に聞きながら、買い物したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナの為、施設での外出行事は出来ない。外出可能になれば検討したい。	コロナ禍の為、外出支援はできないが、隣接されている公園には時折出かけ外気に触れる機会とその時々季節を感じてもらう事と五感刺激となる支援に取り組まれている。また、室内行事を多く企画し、楽みと気晴らしとなる様務めている。コロナが終息すれば希望の場所へ出かける様取り組む。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方が殆どである。入居時に財布を持たれている方は小銭程度であれば、御家族の了解を得て所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINEを利用し、写真、動画を相互送信する。GHの電話で会話する。個別1例ではあるが日記を書き、御家族に返事を書いて頂いたり、葉書のやりとりをして頂いている。全体としては、行事でスタンプ葉書を作成し郵送した。暑中見舞い葉書、年賀状郵送を計画している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節したり、排泄時の汚染物は新聞で作ったゴミ入れを使用し臭いにも気をつけている。照明にも気をつけている。	各ユニットの玄関には季節が感じられる装飾品が飾られている。共有の場は広く、ソファも置かれ、好きな場所で過ごす事ができる。テラスにはお花も植えられていて天気が良い日にはテラスで外気に触れる事も出来る。不快な匂いや死角もなく、室温や換気にも配慮され、穏やかに過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでもテレビが観れたり、音楽のユーチューブをタブレットで観たり、廊下の奥に椅子を置き少人数で談笑したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が昔使用していた家具、思い出の写真など置き、居心地よく過ごせるようにしている。	家具やテレビ、思い出の写真等が持ち込まれ、出来るだけ自宅とのギャップが無いように工夫され、落ち着いた過ごせる環境作りをされている。洗面台が設置されている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が安心して行動出来る様に廊下、トイレ、浴室などに手すりが設置されている。一部、トイレの表示を大きくして目立つようにしている。居室には表札をかけている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム春

## 目標達成計画

作成日: 令和 3 年 12 月 27 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の為、積極的に運営推進会議実施できていない。	感染予防をし、地域との関わりを増やす。	推進会議を実施する。	1年
2	35	災害についての意識が低い。訓練ができていない。	年2回の訓練だけでなく、少し頻繁に話、議題にも出し、意識を高める。	グループホームの全体会議(月1回)で議題に出し、避難経路等の確認をしていく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。